

平成28年度 妙高市道徳部 活動報告

部長 渡辺 伸一

1 研究主題

「特別の教科 道徳」の教科化に向けた取組 ～全面実施に向けて～

2 研究の概要

まもなく「特別の教科 道徳」が実施となる。道徳教育の大きな転換期であることは間違いない。しかし、今は教科書の導入や評価はどうなるのかなどの不安を抱える教職員が多い。妙高市道徳部は、その解消を図るための研修会を2回行い、不安の払拭を図る。「特別の教科 道徳」に至った背景や経緯を学び、内容理解の促進と浸透を図ると共に、それを生かした自校の道徳教育全体計画の見直しと整備、真の要となる道徳授業の質的改善をどのように進めていったらいいかを探っていった。

3 研究の実際

(1) 「特別の教科 道徳」に向けた取組についての研修会 1

期日 平成28年8月19日(金)

場所 新井総合コミュニティーセンター

講師 新井南小学校 校長 鹿住 寿和 様

- ①これまでの経緯
- ②実施までに確認すること
- ③道徳科の授業改善と確実な実施
- ④道徳科の授業における児童生徒の学習状況の把握
- ⑤家庭や地域社会との連携



(2) 「特別の教科 道徳」に向けた取組についての研修会 2

期日 平成28年11月8日(火)

場所 はね馬アリーナ

講師 能生小学校 校長 村山 学 様

- ①特別の教科であることをどう受け止めるか。
- ②文部科学省 教科調査官 赤堀博行 氏の講演資料から
- ③道徳教育の進め方
- ④道徳の授業づくりの実際



2回の研修会を終え、参会者からは「実際に取り組んできたことを基にした講話であり、話が具体的で分かりやすかった。私たちがこれから何をしなければならぬか見えてきた」などの声が聞かれた。

4 成果と課題

学校で道徳教育を進める際には、学校が主体的に子どもの実態や地域の実情など様々な事柄を的確に把握する必要がある。さらに育てたい子ども像を明らかにし、目標を設定し、計画を立てなければならない。そして教職員の共通理解、共通実践できるようにすることが求められている。特別の教科道徳の実施で試されているのは学校のカリキュラムマネジメント力、学校の組織力、校長や主任層のリーダーシップである。「特別の教科 道徳」が、子どもの心を豊かに育むチャンスと捉え今後も研修を重ねていく。